

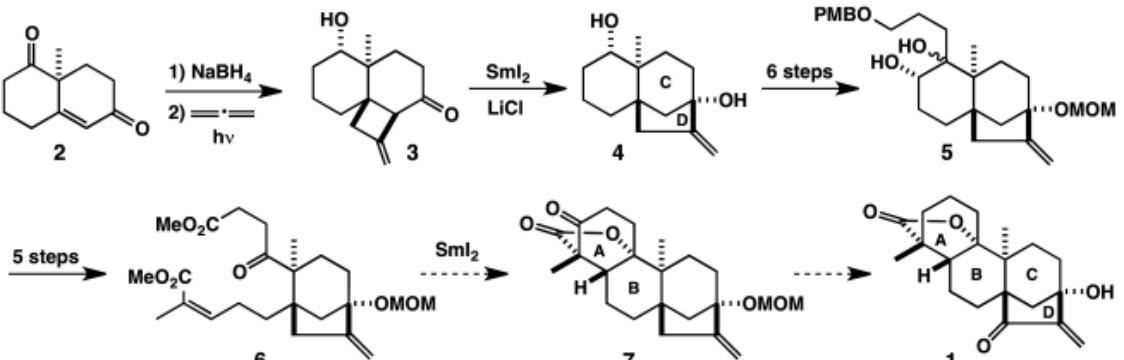
27PB-am002S

13-Hydroxy-15-oxozoapatlin の合成研究

長澤 心^{1,2}, ○松永 和磨¹, 岸田 敦¹, 高取 和彦¹ (¹明治薬大, ²太田胃散)

【目的】 最近, 当研究室では SmI₂ を用いた転位反応によるビシクロ[3.2.1]オクタノン環構築法¹⁾, 及び連続環化反応によるγ-ラクトン環を有する多環状骨格の構築法²⁾を開発した。今回, これらの骨格構築法を適用して, 抗腫瘍活性を持つ転位カウラン類 13-hydroxy-15-oxozoapatlin (**1**) の合成研究を行った。

【結果】 Wieland-Miescher ketone (**2**) の選択的な還元, アレンとの光環化付加反応で得た **3** に対して, SmI₂ による転位反応を行い, 一挙に **1** の CD 環部を構築した。続いて 6 員環の酸化開裂を伴う上下側鎖の形成を行い, ケトン, エステル, α,β-不飽和エステルを有する連続環化反応前駆体 **6** へと導いた。現在, **6** の連続環化反応による AB 環部構築を経由した **1** の全合成について検討中である。



1) 太田捷哉, 岸田敦, 長澤心, 高取和彦, 長岡博人, 日本薬学会第134年会 28X-pm04S (2014).

2) A. Kishida, H. Nagaoka, *Tetrahedron Lett.* **49**, 6393-6397 (2008).